

DANS CE CADRE

NE RIEN ÉCRIRE

Académie : \_\_\_\_\_ Session : \_\_\_\_\_ Modèle EN.  
Examen ou Concours \_\_\_\_\_ Série\* : \_\_\_\_\_  
Spécialité/option : \_\_\_\_\_ Repère de l'épreuve : \_\_\_\_\_  
Épreuve/sous-épreuve : \_\_\_\_\_  
NOM : \_\_\_\_\_  
(en majuscules, suivi s'il y a lieu, du nom d'épouse)  
Prénoms : \_\_\_\_\_ N° du candidat   
(le numéro est celui qui figure sur la convocation ou la liste d'appel)  
Ne (e) \_\_\_\_\_  
Examen ou concours : \_\_\_\_\_ Série\* : \_\_\_\_\_  
Spécialité/option : \_\_\_\_\_  
Repère de l'épreuve : \_\_\_\_\_  
Épreuve/sous-épreuve : \_\_\_\_\_  
(Préciser, s'il y a lieu, le sujet choisi)

「型」を学び、使いこなす

——フランスの哲学教育——

Note :   
20

Appréciation du correcteur (uniquement s'il s'agit d'un examen) :

Numérotez chaque page (dans le cadre en bas de la page) et placez les feuilles intercalaires dans le bon sens.

坂本尚志 (京都薬科大学)

\* Uniquement s'il s'agit d'un examen.

# 本題の前に：なぜバカロレア哲学試験か？

- 2001年～2011年（フランス留学時代）
  - 哲学科の学生として
  - 日本学科教員として
- 2011年～（京都大学高等教育研究開発推進センター）
  - フランスでの経験を、教育の領域で振り返る  
→バカロレア哲学試験と哲学教育の研究へ

# 今日のお話

- バカロレア哲学試験とフランスの哲学教育
- 「型」の習得としての哲学教育
- フランス人は哲学ができる！？
- フランスの哲学教育からわれわれが学べること

バカロレア哲学試験と高校の哲学教育

# バカロレア哲学試験とは？

- フランスのバカロレア試験（中等教育修了資格兼大学入学資格）の一科目
- 高校最終学年の6月に実施
- 試験は記述式、試験時間は4時間
- ディセルタシオンと呼ばれる小論文3題（昨年までは2題）とテキスト説明とよばれる哲学書の抜粋の説明1題から1問を選択して解答
- 出題・採点は高校教員によって行われる

# 2019年の問題

2020年は新型コロナウイルス感染拡大のため実施されず

- 文科系

1. 時間から逃れることは可能か？
2. 芸術作品を説明することは何の役に立つのか？
3. ヘーゲル『法の哲学』の抜粋を説明せよ

- 経済社会系

1. 道徳は最良の政治であるのか？
2. 労働は人々を分裂させるのか？
3. ライプニッツ「デカルトの哲学原理の総論に関する考察」の抜粋を説明せよ

- 理科系

1. 文化の多様性は人類の一体性の障害となっているのか？
2. 義務を認めることは、自由を断念することなのか？
3. フロイト『幻想の未来』の抜粋を説明せよ

# 高校の哲学教育：その目的と方法

- 教育目的

- 「哲学教育は、疑問を持ち、真理を探究することへの配慮、分析する能力、思考の自律性を生徒のうちに育てることを目指している。それらなくしては現実の複雑さを知ることはできないであろう」（国民教育省哲学教育プログラム）
- リセ（高等学校）の最終学年での中等教育の総仕上げ

- 授業時間（1週間あたり）

- 4時間（+選択科目「人文学・文学・哲学」2年生4時間、3年生6時間）

- 授業内容

- 哲学の教授資格を持った教員が担当し、さまざまな哲学的主題の扱い方、それに関する哲学者たちの主張を学ぶ（教科書はない）
- 学習成果はディセルタション（小論文）やテキスト説明の練習により評価

# 哲学教育の内容（1）：3つの視点

1. 人間存在と文化
2. 道徳と政治
3. 知識

次に見る17の概念は、これら3つの視点を考慮しつつ、多元的に考察されねばならない

例) 芸術／技術

道徳的考察、認識論的考察だけでなく、人間存在と文化におけるそれらの位置についての考察も必要



# 哲学教育の内容（2）：17の概念

芸術	幸福	意識
義務	国家	無意識
正義	言語	自由
自然	理性	宗教
科学	技術	時間
労働	真理	

# 哲学教育の内容(2) 著者

時代	著者
古代 中世	ソクラテス以前の哲学者たち、プラトン、アリストテレス、 <b>荘子</b> 、キケロ、ルクレティウス、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス、 <b>ナーガールジュナ</b> 、セクストス・エンペリイコス、プロティノス、アウグスティヌス、アヴィセンナ、アヴェロエス、 <b>マイモニデス</b> 、トマス・アキナス、オッカムのウィリアム
近代	マキャベリ、モンテーニュ、ベーコン、ホッブズ、デカルト、パスカル、ロック、スピノザ、マルブランシュ、ライプニッツ、ヴィーコ、バークリ、モンテスキュー、ヒューム、ルソー、ディドロ、コンディヤック、 <b>スミス</b> 、カント、 <b>ベンサム</b>
現代	ヘーゲル、ショーペンハウアー、コント、クルノー、 <b>フォイエルバッハ</b> 、トクヴィル、ミル、キルケゴール、マルクス、 <b>エンゲルス</b> 、 <b>ウィリアム・ジェームズ</b> 、ニーチェ、フロイト、デュルケーム、ベルクソン、フッサール、 <b>ウェーバー</b> 、アラン、 <b>モース</b> 、ラッセル、 <b>ヤスパース</b> 、バシュラール、ハイデガー、ウィトゲンシュタイン、 <b>ベンヤミン</b> 、ポパー、 <b>ジャンケレビッチ</b> 、 <b>ヨナス</b> 、 <b>レイモン・アロン</b> 、サルトル、 <b>アレント</b> 、レヴィナス、 <b>ボーヴォワール</b> 、 <b>レヴィ=ストロース</b> 、メルロ=ポンティ、 <b>ヴェイユ</b> 、 <b>エルシュ</b> 、 <b>リクール</b> 、 <b>アンスコム</b> 、 <b>マードック</b> 、ロールズ、シモンドン、フーコー、 <b>パトナム</b>

# 哲学教育の内容(3) 手がかり

絶対的/相対的 – 抽象的/具体的 – 現実態/可能態 – 分析/総合 – **概念/イメージ/メタファー**、偶然的/必然的 – 信じる/認識する – 本質的/偶有的 – **事例/証拠** – 説明する/理解する – 事実上/権利上 – 形相的（形式的）/質料的（物質的） – 類/種/個体 – **仮説/結果/結論** – 観念的/現実的 – 同一/平等/差異 – **不可能/可能** – 直観的/論証的 – 合法的/正当な – 間接的/直接的 – 客観的/主観的/**間主観的** – 義務/制約 – 起源/基礎 – （論理的に）説得する/（感情的に）納得させる – **原則/原因/目的\*** – **公的/私的** – 類似/類比 – 理論/実践 – 超越的/内在的 – 普遍的/一般的/個別的/個体的 – **真正の/蓋然的な/確実な**

\* 原因/目的、原則/結果の統合

「型」の習得  
哲学教育で求められるもの

# バカロレア哲学試験をめぐる言説

- バカロレア哲学試験では答えがない問題を解かねばならない
- バカロレア哲学試験は暗記では対処できない、創造力が求められる試験である
- 哲学を学んでいるのだから、フランス人はみんな哲学ができる

# 「答えがない」 ≠ 「何でもあり」

- 「時間から逃れることは可能か？」
  - 「唯一の正解」はない
  - 問題の肯定、否定の二つの視点の根拠を検討し、その上でどちらの視点をどのような理由で支持するかを明確に示すことが重要（第三の視点が導入されることもある）

# 重要なのは「型通りの方法」：問題分析

1. 問題文の用語・概念の分析
2. 問題に対する可能な答えを列挙する
  - 肯定と否定
  - 両者を止揚した第三の答え
3. 問題を「問いの集まり」に変換し、問題の含意を明らかにする
  - 「なぜ」「どのように」「仮に~ならば」「いかなる条件で」などの言葉を用いて、問題を複数の問いに言い換える

# 重要なのは「型通りの方法」：弁証法的構成

- 導入
  - 問題分析を踏まえ、言葉や概念を定義し、可能な答えを示し、問題を言い換えつつ議論の内容を予告する
- 展開（2~3つの部分から成る）
  - 各部分が「肯定」「否定」「両者の総合」のいずれかを扱う
- 結論
  - 展開部分での議論を要約して問いに答える



# 正確な引用を「暗記する」こと

- 哲学的典拠の正確な引用が重要
- 「アリストテレスが『ニコマコス倫理学』でこう言った」では不十分。「アリストテレスは『ニコマコス倫理学』第10巻第7章においてこう言った」と書かねばならない
- ただし、引用が適切な文脈の中でなされ、その含意が説明されていることが不可欠
- 「**暗記科目**」としての側面

# 哲学教育とバカロレア哲学試験のゴール

- 哲学教育によって学ばれる「**思考の型**」を活用する能力を評価する試験であり、創造性や文才を問う試験ではない
  - 「型」を遵守した上で、どれほど論理的に解答できているかが評価の対象
- 決まった「型」にはめ込む形で自分の考えを表現する訓練
  - 「**市民**」としての必須のスキルの育成

フランス人は哲学ができるの  
か？

# あまりできていない

- 哲学科目の平均点は20点満点中7点であり、他科目と比べて4点程度低い。また、合格点（10点以上）を取る答案は全体の3割以下（Ferry et Renault 1999）。
- バカロレア哲学試験受験者は同年齢人口の60%弱（日本の大学進学率とほぼ同等）  
→ここから考えると「哲学ができる生徒」は同年齢人口の18%にも満たない
- 全体の7割以上が合格点に達しない試験を最終的なゴールとする哲学教育は、効果的？

バカロレア哲学試験からわれ  
われが学べることは何か？

# 思考し表現する市民を育てる哲学教育

- 市民教育としての哲学： 反対意見の論理性、一貫性を踏まえた上で自己の意見を表明するという、民主主義社会における討議の基礎的態度を、ディセルタションという仮想の対話を通じて育む
- 思考力の育て方： 「型」の重視によって、問題を分析し、可能な解答の選択肢を提示し、答えに至る道筋を描き出す能力を育む

# 残された課題

- しかし、すべての生徒がこのような能力を身につけているとは限らないことには留意すべき
  - バカロレア哲学試験は決して理想的な試験ではない
    - 「声なき市民」の不可視化？
- 「問いを立てる」ための方法とは？
  - バカロレア哲学試験の応用の可能性

ご清聴ありがとうございました！

